

書く！描く！撮る！子どもたちがつくるローカルマガジン



[IZUCCO : いづっこ]
Vol.2 take free!

子どもたちがプロと一緒に

伊豆の国市を取材して発信する

ローカルマガジン



特集 ともだちに教えたい！

川と遊ぼう。

COLOMAGA project

コロマガプロジェクト 伊豆の国市



イラスト／悠矢



<https://izucco.com>



こどもローカルマガジン
COLOMAGA
project
コロマガプロジェクト 伊豆の国市

伊豆の国市の未来を支える
子どもたちとプロが創る地域情報誌
IZUCCO 2021年11月発行 (IZUCCO Vol.2)

IZUCCO制作実行委員会 静岡県伊豆の国市原木627 代表 中野あゆみ

IZUCCOは「伊豆の国市市民提案型パートナーシップ事業」、
「ふじのくに未来財団 子育て支援助成事業」として実施しています。

公益財団法人
ふじのくに未来財団
Fujinokuni Future Foundation

CONTENTS

特集 ともだちに教えたい！川と遊ぼう。

- 04 狩野川ラフト
知らなかった！川の中から見た伊豆の国市
- 06 マウンテンバイク
川の風を感じながらドキドキのオフロードコース体験
- 07 アマゴ釣り
きれいな水に感動！川遊びを学ぼう

伊豆の国市を食べる

- 08 元祖温泉まんじゅう 黒柳
何個でも食べたい！おいしさの秘密
- 09 神田農園 いちご屋
美味しい「いちご」はこうして作られる

伊豆の国市の仕事人

- 10 工房 Rokumoku
渦輪倫子さん
山と木のことをまちの人に伝えたい
- 11 元プロバスケットボール選手
波多野和也さん・五月さんご夫妻
地元からプロ選手を出したい

- 12 MAP
- 13 取材の様子 ~Making Photo Gallery~
- 14 編集後記
- 15 コロマガプロジェクトの活動について

● ● ● 講座の様子 ● ● ●



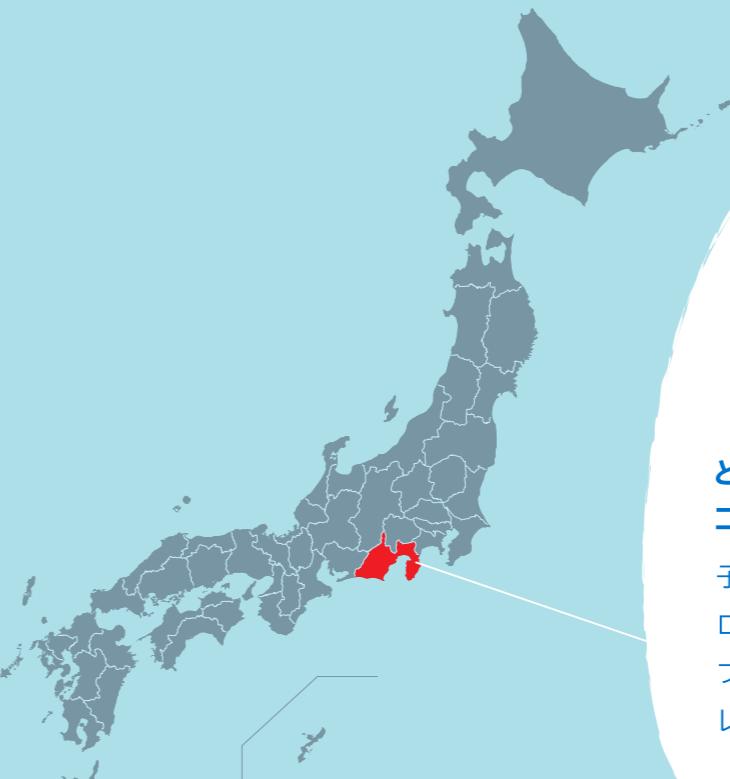
タイトル題字／晴太
表紙イラスト／岳杜・朱莉

コロマガは「ESD」の実践活動



2013年度に産声をあげたコロマガは、子どもたちがこの制作を通して地域に愛着や誇りをもつ「持続可能な社会を創りたい」という気持ちを育てられる実践的な活動と言えます。この「持続可能な社会の創り手を育てる教育」がESD (Education for Sustainable Development) と呼ばれているものです。同じ頃、2015年国連サミットで世界のリーダーが集まって2030年までの目標を定めました。これがSDGs (Sustainable Development Goals) といわれる17の目標と169のターゲットからなるものです。今、世界中でこの目標を達成するために官・民・学のあらゆる機関をあげて取り組んでいます。そしてこのSDGsを達成するためのエンジンがESDであるといわれています。

子どもたちの未来のためにみんなでコロマガの取り組みを応援してください。



COLOMAGA Project 伊豆の国市版



ともだちに教えたい！伊豆の国市の“いいとこ”をコンセプトに制作しました。

子どもたちがクリエイターとコラボレーションして創ったローカルマガジン(地域情報誌)が、この「IZUCCO」です。プロに写真撮影技術や取材の仕方、イラストの描き方のレクチャーを受けた子どもたちが、「伊豆の国市のいいとこ」を取材して、まちの魅力を表現しています。

こどもローカルマガジン **COLOMAGA** プロジェクト 伊豆の国市

わたしたちは、
コロマガプロジェクトを通して
こんな社会を実現していきたいと
思っています。

IZUCCOでは、一緒にローカルマガジンを作ってくれる小学校3年生から6年生までの仲間を募集しています！取材をしたり、文章を書いたり、絵を描いたり、写真を撮ったりすることに興味のある方は制作実行委員会までご連絡ください！

連絡先: colomaga.izunokuni@gmail.com

子どもたちの
創造性・独創性を
育み活かす機会が
増えること

ふるさとの良いところを
知って自慢できる
子どもたちが
増えること

ひとりでも多く
自己肯定感の高い
子どもたちが
増えること

地域コミュニティに
関心を持つ
大人と子どもたちが
増えること

「デザインの力」を
理解できる
子どもたちが
増えること

ふるさとに住みたい、
ふるさとで働きたい
と思う子どもたちが
増えること

一緒に何かを創り出す
大人と子どもたちの
関係が増えること

こんなことが増えれば、日本の未来は明るい！

伊豆の国市は、川のあるまち。

川があるだけで、

遊び方は無限。

経験したからこそ、

ともだちに教えたい、

とっておきの遊びを

ご紹介します。



狩野川は
まちのすぐ近くにあるのに、
普段見られない、
川から見る景色は最高！



狩野川ラフトを教えてくれた根岸さんの職業は、伊豆のアウトドアツアーガイドです。ラフトの他には、キヤニオニングやロッククライミングのツアーをサポートしてくれます。

根岸さんがラフトやクライミングを好きなのは、誰かと競わずに自然を楽しめるからだそうです。根岸さんがこの職業を始めたのは、約20年前だそうです。根岸さんがツアーワークに気をつけていた事は、どういふことをすると危険なことを、参加者の人にしっかりと伝えることです。

みんなが安全に自然を楽しんでみてはいかがですか。



アドベンチャーサポート 〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 75 ドットツリー修善寺 PJ-G TEL.0558-99-9105

□開催場所 静岡県伊豆の国市の狩野川

□所要時間 2時間30分～3時間（説明・移動時間含む）

□料 金 大人（16歳以上）7,000円／学生（中学生・高校生・大学生）6,500円／子供（3歳～小学生6年生）6,000円／犬 3,500円

□持 物 濡れても良い靴もしくはスポーツサンダル（ビーチサンダル不可）※シューズレンタルあり

□参加条件 ヒト：3歳以上で一人で座っていられる方・ライフジャケットが着られる方／犬：体重30kgまで。噛み癖・吠え癖のないヒート中でない犬

競わず自然を楽しんでほしい



特集 ともだちに教えたい！川と遊ぼう。



文／岳杜・拓海
イラスト／朱莉・岳杜
写真／悠矢・晴太・りこ

見たことのないもの、知らなかった景色に出会える

狩野川ラフトは、伊豆を流れる狩野川で、大人も、子供も、ワンちゃんも一緒に楽しめるラフトボートツアードです。伊豆の国市から、函南町にある「川の駅 伊豆ゲートウェイ函南」まで、富士山に向かってボートをこぎます。途中でボートからおりて川の中の生き物を探したり、ボート競走をしたり、楽しいことがたくさんありました。川の流れは、早いところやゆっくりしたところがあり、川に石があつてパドルを動かしていくかたりと、ボートを進めるのはなかなかむずかしかったです。初めてボートに乗つてみて、知らないかった景色や、見たことのないものを見られて楽しかったので、ぜひ皆さんにも体験してもらいたいです。



ともだちに教えたい、
とっておきの遊びを

経験したからこそ、

遊び方は無限。

川があるだけで、

水上、水中、川の周りと



最後の最後に 1匹ゲット!



狩野川漁業協同組合

〒410-2323 静岡県伊豆の国市大仁 901
TEL.0558-72-5945
<https://kanogawa-gyokyo.jimdofree.com>



水がきれいいで感動！

ぼくたちは、深沢川で、アマゴ釣りを体験しました。アマゴ釣りを教えてくれたのは、狩野川漁業協同組合の井川弘二郎さんです。釣りのえさは、とうもろこしやクロカワムシなどです。

釣り方のコツは、川の流れで釣り糸が流されるので、糸を上げて元の場所にもどすこと。釣りざおが長く、なかなか遠くにウキを飛ばすのが難しかったです。隣のチームの糸とかまつたり、草に引っかかったりと大変でした。なかなか釣れず、魚の群れを見つけてそこになげても、ぜんぜん食いつきませんでした。でも、終わりのころに、仲間のさおに魚が食いついて、やっと釣れました。

今回は体験のために放流してくれたけれど、狩野川には元からアマゴはぜつたのに釣りたいです。

たけれど、狩野川には元からアマゴ

がいて、アマゴは水がきれいなところにしか住まないそうです。釣りをして再発見した伊豆の国市の良いところは、川や池などの水がきれいで、魚がたくさん住んでいるところです。釣りをしているときも、アマゴが川原から見ええていました。狩野川には、アマゴの他にも、鮎、うなぎなどもいるそうです。

最後に、「川はこわいけど楽しいところもある。川で遊ぶときは大人と一緒にライフジャケットを着て遊んでください」と井川さんがお話してくれました。ちなみに井川さんがおすすめする川魚の食べ方は、塩焼きです。

ぼくたちが体験した日は、あまり釣れませんでしたが、また行った時はぜつたに釣りたいです。



風の中のドキドキ感と達成感！



マウンテンバイクを教えてくれた山田将輝さんは、家にマウンテンバイクが2台、ロードバイクが1台あるそうです。5才の時から19年間マウンテンバイクに乗っていて楽しいと思って、自転車に乗ったきっかけは、マウンテンバイクに乗って楽しいと思って、自転車に乗ったからだそうです。好きな食べ物はアジの寿司で、肉だったらジンギスカン。好きな色は白だそうです。僕はマウンテンバイクは普通の自転車と性能が違うということを知ったので、ガイドの人言うことをよく聞いて、安全に遊んで欲しいと思いました。



自転車に関わる
仕事がしたくて、
ガイドになりました。



MERIDA X BASE

〒410-2315 静岡県伊豆の国市田京 195-2 伊豆ビレッジ内
TEL.0558-77-2727
営業時間／9:00～17:00 年中無休（年末年始除く）
<https://www.merida.jp/x-base>

今回の体験は、伊豆の国市かわまちづくり実証実験として実施されました。
詳しくは伊豆の国市都市計画課（055-948-2909）までお問い合わせください。

文/悠矢・拓海
イラスト/あすみ・岳杜
写真/紗耶・晴太、悠矢・りこ

伊豆の国市を食べる

伊豆にらやま苺

神田農園

あま あま

甘さと酸っぱさの
バランスが最高！



お米も作っています！

3代目園主 神田直己さん
・47歳
・柔道の先生もやっている
・ラーメンが好き
・好きな色は赤

文/拓海・ツバキ・澤菜
イラスト/晴太・拓海・澤菜
写真/晴太

皆さんには神田農園でいちご以外に採れるものを知っていますか？正解はお米です。なぜお米を作るのかというと、いちごを荒らされないために、周りの荒地を耕してお米を作っているのです。なんとお米は5400坪分も作っています、いちごは1200坪分作っています。お米を作っているそうです。多い時は1000パック出荷しています。そうですね。品種は主に「紅ほっぺ」。ときどき、依頼で「きらび香」なども作るそうです。作ったいちごはケーキ屋さんなどに届けられます。年末はクリスマスケーキなどに使用されます。

神田農園では、減農薬栽培の為に、アルカリイオン水を使っています。そのため、通常40回ほど農薬を撒くところを、4回しか撒いていません。



神田農園 いちご屋

〒410-2114 静岡県伊豆の国市南條 992
TEL.055-949-2008



お米も作るいちご農家

いそです。このように努力して作られていることに、とっても驚きました。神田農園はとても奥が深いな



伊豆の国市を食べる

元祖温泉まんじゅう

黒柳

何個でも食べなくなる
おいしいまんじゅうです。



文/岳杜・紗耶
イラスト/岳杜・幹大・りこ
写真/岳杜・紗耶・りこ



私たち温泉まんじゅう屋さんの、黒柳へ取材に行きました。まんじゅうを作るコーナーへ入ると、モワツとしていて暑かったです。いろんな人がテキパキと動いて作業していました。形を整える機械からできあがったまんじゅうを取り出したり、がいに運ぶ人などがいました。ここで問題です。温泉まんじゅうの印は、どうやってつけるのでしょうか？正解は、焼いてつけるのです。黒柳がこだわっている工夫はたくさんあります。1つ目は、生地を1日寝かせることです。うまみが出て温泉水をまんじゅうを箱に詰めるのは手作業でするということです。なぜなら機械だと、どうしても崩れてしまうからです。3つ目は、味の変化です。昔は甘いまんじゅうを作っていましたが、今は甘さを控えました。なぜかというと、今のは優しくなめらかな味のまんじゅうを好むからです。とっても工夫しています。常連

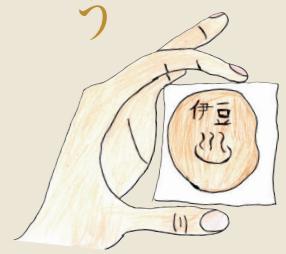
さんもいて、私たちが取材している間にもたくさんのお客さんが買いました。とっても人気ですね。すごいです。伊豆長岡にはたくさん温泉まんじゅう屋さんがありますが、黒柳は他のお店に負けないようみんながいっぱい食べたくなるまんじゅうを作るために、日々工夫しています。もっとおいしくするには…とも考えています。

最後に温泉まんじゅうを頂きました。もちもちで、ほどよい甘さで、とってもおいしかったです。すごくおいしくて、努力を重ねている黒柳の温泉まんじゅう、皆さんもぜひ食べてみてください！



元祖温泉まんじゅう 黒柳
〒410-2211 静岡県伊豆の国市長岡 1288-6
TEL.055-948-0789
<http://www2.tokai.or.jp/kuroyanagi>

甘さ控えめ なめらかなまんじゅう



伊豆の国市の
仕事人
worker 01

うす
わ
りん
こ
工房Rokumoku
渦輪倫子さん

江間の奥にある工場のような建物。
実はここ、工房Rokumokuというお店
なのです。まるで、かくれ家のよう
なお店。いったいどんな所なので
しょう。

工房Rokumokuは、お店を始めた

渦輪倫子さんと、お父さんお母さん
でやっています。いろいろな木でボ
タンやスプーン、他にもいろいろな
物を作つて売つています。どれも優
しい色あいで、温かくかわいらし
いです。

倫子さんはもともと会社員で、森
林ボランティアに入り、山の世話を
していたそうです。ボランティアを
している中で、倫子さんは山で起き
ていることをまちの人たちが知らな
いことにびっくりしたそうです。

そこで、山のことをまちの人間に知
らせたいと、倫子さんは考えました。

らせてみると、何かを作つてみたかっ

た。倫子さんは木工に出会い、今にいた

伦子さんは他の素材より木が好き
だそうです。なぜなら、金属のス
プーンは冷たいけれど、木のスプ
ーンは優しく温かいからだそうです。

「木はきれい。おもしろい。色も模
様も形もちがう」と倫子さんは言
いました。人が温かいように、人それ
ぞれちがうように、木も生きている
んだなと思いました。

倫子さんたちが大切に作つた作品
を、あなたもひとついかがですか？

ります。はじめ工房Rokumokuは三
島で誕生しましたが、江間に魅力を
感じて引っ越して來たそうです。

名前の由来は、木、林、森の6つの
木を合わせてRokumokuにしたそ
うです。



- ①木を切る
 - ②約1年乾燥させる
 - ③形にけざる
 - ④やすりがけ
 - ⑤仕上げ塗り
- の手順でスプーンやフォークを作つています。特におどろいたのはやすりがけです。凹凸の大きいやすりから、だんだん凹凸の小さいやすりに変えていくことで、はだざわりのよい、なめらかな手ざわりになるそうです。



工房 Rokumoku

〒410-2223
静岡県伊豆の国市北江間 1728-207
TEL.080-3649-2087
10:00~17:00 金曜定休
<https://spoon6moku.wixsite.com/rokumoku>



工房Rokumokuで使つている木
は、全て「何か理由があつて切られ
た木」です。切られた木を倫子さん
たちが大切に生まれ変わらせます。



伊豆の国市の
仕事人
worker 02

波多野和也さん・五月さんご夫妻

元プロバスケットボール選手

波多野和也さん
バスケットボール選手

いつか地元の子どもたちから
バスケのプロ選手を出したい。

波多野さんご夫妻は、大仁に住んで
いる、元プロバスケットボール
選手です。そんなお2人にインタ
ビューをしました。

波多野和也さん、五月さんは、2
人とも選手を引退し、伊豆の国市で
バスケットボール（以下バスケ）の
教室をひらいでいます。

和也さんはブラジル出身、五月さ
んは伊豆の国市出身です。2人とも
中学の時にバスケを始めたそうです。
楽しくて、いつしか「バスケット
ボール選手になりたい！」という夢
をもつて、選手になつたそうです。

波多野さんご夫妻から見てバスケ
とは「当たり前にあるもの」だそう
です。バスケの良いところは仲間が
いるところだそうです。つらい経験
も分かち合えると言つていました。

バスケの教室は子どもたちにバス
ケを教えていたいと思つて始めたそうで
す。



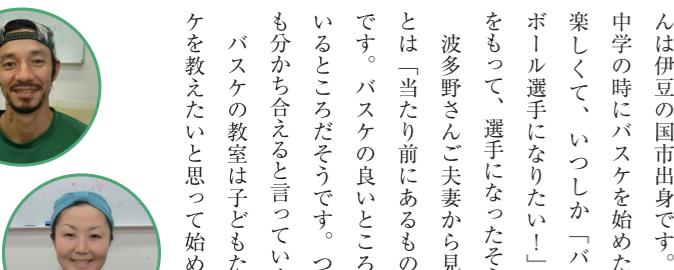
波多野さんご夫妻に聞いてみた！Q&A

Q 身長は？
A 和也さん：約190cm
五月さん：175cm

Q 伊豆の国市の良いところは？
A 「自然が良い」「人が良い」ところ。

Q バスケをやめたいと思ったことは？
A 和也さん：ある
五月さん：ある

Q 子どもの時の夢は？
A 和也さん：「なかった、中学でバスケを始めてバスケが夢に」
五月さん：「保育園の先生。なれなかつけれど、
子どもたちに教えるという夢はかなつた」



二人とも、すごく明るくて優しかったです。優しく質問に答えてくれてうれしかったです。

WITH J PROJECT 株式会社

〒410-2303 静岡県伊豆の国市立花 2-180
TEL.050-3569-9913
<https://www.withjproject.com>



文／紗耶・竹虎・ツバキ イラスト／紗耶・悠矢
写真／竹虎・晴太・りこ



IZUCCO Vol.2 Photo Gallery

題字イラスト／幹大



アドベンチャーサポート

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 75 ドットツリー修善寺 PJ-G
TEL.0558-99-9105

MERIDA X BASE

〒410-2315 静岡県伊豆の国市田京 195-2 伊豆ビレッジ内
TEL.0558-77-2727

狩野川漁業協同組合

〒410-2323 静岡県伊豆の国市大仁 901
TEL.0558-72-5945

元祖温泉まんじゅう 黒柳

〒410-2211 静岡県伊豆の国市長岡 1288-6
TEL.055-948-0789

神田農園 いちご屋

〒410-2114 静岡県伊豆の国市南條 992
TEL.055-949-2008

工房 Rokumoku

〒410-2223 静岡県伊豆の国市北江間 1728-207
TEL.080-3649-2087

WITH J PROJECT 株式会社

〒410-2303 静岡県伊豆の国市立花 2-180
TEL.050-3569-9913

子どもたちの創造性を育てて地域をつなげる活動です。

創造力は生きる力。何かを創り出すことが楽しければ、創ったものは人のためになり、社会をより良くして、地域のつながりが強くなります。

わたしたちの活動

「COLOMAGA Project」は子どもたちが自分の住む「まち」を取り、大人たちとプロのクリエイターと一緒にその「まち」オリジナルのローカルマガジン（地域情報誌）を作るプロジェクトです。大人たちは、その子どもたちのさまざまな活動を支え、異種多世代の交流を促進していきます。

自分の住んでいるまちの楽しい情報を、そのことを知らない人たちに伝えるため、知らない人と出会い、コミュニケーションを取り、自分のセンスで写真を撮って、イラストを描いて、文章を書くために専門家から様々なレクチャーを受けます。そこで教わったスキルを活かして、ローカルマガジン（地域情報誌）をつくります。

子どもたちが、取材を通して出会った人たちとのコミュニケーションは、世代を超えた交流やキャリアの体験となり、出会った人たちが教えてくれた、その「まち」の魅力を知れば知るほど、自分の「まち」が好きになっていきます。自分の「まち」が好きになると、その「まち」が自分の居場所になっていく。そしてその「まち」のために何ができるだろうと考えられる人が一人でも多く育って欲しい。COLOMAGA Projectはそんな思いで活動しています。

SDGs ESD-J KIDS DESIGN AWARD

わたしたちの活動は、SDGs【持続可能な開発のための2030アジェンダ】の17のゴールのうち「No.4 質の高い教育をみんなに」「No.11 住み続けられるまちづくりを」を実現するための実践者として、ESD-J【持続可能な開発のための教育】の「未来を変える人づくり」活動として高く評価されています。その活動が認められ、2018年、経済産業省が制定した「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」において、キッズデザイン賞を受賞することができました。SDGs、キッズデザイン賞と広く社会に認められた活動を通して、未来を担う子どもたちの育成と地域づくりに貢献できればと思います。

ぜひ、この活動をサポートしてください

① この活動にぜひ参加してください！

子どもたちの創造性を活かす機会として、雑誌をプロと一緒に作ることの活動に参加してください。作る側でなくとも、地域の大人のひとりとして、自分の経験や知識を子どもたちと地域のためにぜひ活かしてください！もし、ご自分で子どもたちと一緒に地域情報誌をつくりたい方は、ぜひご相談ください。わたしたちの仲間が、企画・告知・集客・取材・制作・デザイン等についてノウハウを提供し、サポートさせていただきます。

② コロマガプロジェクトがもっと有名になるのをサポートしてください。

COLOMAGA Project発足当時、小学生として参加した子どもたちは、もう大学生になりました。その子どもたちが自分の中の変化や、地域に対する思い、活動への思いを、みなさまの前で講演させていただきます。また、これまでの活動内容や実績を、主催者の大人たちが、みなさまの前でお話しいたします。この活動の効果、実績を知りたい方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局までお問い合わせください。

③ 活動が継続できるように、資金のご支援をお願いいたします。

この活動に賛同していただけたら、ぜひ活動資金のご支援をいただければと思います。

【法人の方へ】

次世代を担う子どもたちの育成は、CSR活動やSDGsの推進の一環にもなり、企業としての社会的な責任を果たすことができます。ぜひご相談ください。

【個人の方へ】

ご寄付は下記の振込先、または制作実行委員会まで直接お持ちください。

【ご支援いただきました方へのお礼】

○ 冊子とホームページにお名前を掲載させていただきます。

（希望者のみの掲載になります。）

○ 完成した冊子をお送りさせていただきます。

ご寄付の振込先 口座名 イズッコセイサクジッコワイインカイ

★ ゆうちょ銀行
二三八(ニサンハチ)店／普通 5029937

★ クレジットカードでのご寄付はコチラをご覧ください
<https://izucco.com/kifu>

※お振込の際は、お名前(漢字)と連絡先を
メール【colomaga.izunokuni@gmail.com】等でお知らせください。

編集後記

参加してくれたメンバー(五十音順)



IZUCCO 制作実行委員会

浅井由剛 COLOMAGA project 発起人、京都芸術大学 准教授、クリエイターチーム カラフル代表



どんな有名なアーティストも、創造するには自分と向き合うことから始めます。自分と向き合うとは、自分がどこで生まれてどこで育ったか、それを自覚することから始まります。ここから素敵なアーティストが生まれるかも。

中野あゆみ IZUCCO制作実行委員会 代表



今号発行に向けてお力添えいただいた全ての方に感謝申し上げます。IZUCCOに参加して『伊豆の国市のいいとこ』を知り、愛してくれた子どもたちが、20年後のこのまちを支える人になることを願っています。

澤田康子 IZUCCO制作実行委員会

前回に引き続き、子どもたちから多くの学ばせもらいました。子どもたちの力は無限大。そして、とても頼もしかった！大人も負けていられませんね！みんなで創り上げたVol.2をどうぞお楽しみください！

守野由香里 IZUCCO制作実行委員会

コロナの影響で去年は活動できませんでしたが、参加することを待ちにしていた子どもたちがいてくれてとても嬉しかったです。今回もステキな冊子が完成しました！みんなの成長した姿が眩しいです！

貴家蘭 IZUCCO制作実行委員会



子どもたちの、伊豆の国市愛を高めたい！と実行委員へ参加しました。参加した子どもたちがIZUCCOを自慢して、地域愛がどんどん伝染していったら嬉しいです。

渡邊真里 IZUCCO制作実行委員会



待ちに待ったvol.2！コロナ禍の合間に縫って取材に挑み、オンラインを駆使してついに完成に辿り着きました。今回も魅力たっぷりのいいところが満載です。IZUCCO目線から知る地元の良さを楽しんでください。

サポートスタッフ



小林杏奈



高井千晶



谷崎あやみ



西島ゆかり



古屋絵理



堀江弓子



松尾泉

クリエイター講師



カメラ講座 講師
池田明貴範 (スタジオSHIZUKU 代表)

取材写真は誰に、何を、どんなふうに伝えたいか!?あらかじめ取材先の方と話をし、撮影のイメージを膨らませておくことが大切です。そして、それを撮るための撮り方の練習も必要です。取材を楽しんで挑戦してください！



ライティング講座 講師
榎昭裕 (沼津経済新聞 副編集長/PRプランナー)

今回は「どのように知らない人にモノを伝えるか」をテーマにワークショップを行いました。どの子どもても楽しく紹介してくれました。この気持ちが将来、このまちの未来を語る「語り部」になるよう期待しています！



取材講座 講師
小澤佑太郎 (静岡新聞社 大仁支局長)

伊豆には自慢できるところがたくさんあります。私もまだ見つけられていません。大人になれば伊豆以外で生活することもあるでしょう。そのときは周りの人に伊豆の自慢を紹介して、伊豆のファンをたくさんつくってください！



イラスト講座 講師
斎藤遥加 (中高美術教員・イラスト教室講師)

絵を描く時の「観察のしかた」を解説しながら、ちょっとしたテクニックのコツも交えて1時間絵と向き合っていただきました。みなさんのIZUCCOに対する熱い思いのこもった差し絵や表紙絵を楽しみにしています！

伊豆の国市の未来を支える
子どもたちとプロが創る地域情報誌 **IZUCCO** Vol.2 2021年11月発行

発行者 / IZUCCO制作実行委員会

編集 / IZUCCO制作実行委員会

制作 / IZUCCO制作実行委員会

デザイン / 望月 悟 (aim-design Inc.)

協力 / 伊豆市若者交流施設9izu, ISABUYA CREATIVE、

伊豆の国市市民提案型パートナーシップ事業、

道の駅 伊豆のへそ、ひとつなぎ伊豆の国。、土屋建設株式会社

後援 / 伊豆の国市、伊豆の国市教育委員会

助成 / ふじのくに未来財団 子育て支援助成事業

お問い合わせ / IZUCCO制作実行委員会 〒410-2124 静岡県伊豆の国市原木627

mail colomaga.izunokuni@gmail.com TEL 055-900-1195 (代表 中野あゆみ)

HP https://izucco.com

サポート (ご寄付いただいたみなさま 敬称略・五十音順) /

青木雄平、浅田恵子、池田明貴範、伊藤主税、宇佐美直子、エノキアキヒロ、遠藤学、大口あい、大塚織恵、小川和弘、尾杉麻衣子、川口敦、海南のえさん、神野由紀、紀美香、國木麻美、小林杏奈、酒井広二、柳原亮、佐野豪、篠鉄平、清水彩、高井千晶、高橋洋明、高橋美紀子、滝戸和美、滝戸京子、竹岡望、多田和子、谷崎あやみ、露木千沙登、株式会社時之橋、所健司、有限会社長岡環境サービス、株式会社中村重機工業、中村周子、橘畠彩香、西陰志保、西原宏夫、一二三鮎や、堀江歯科医院、前川愛、株式会社マエダ美化、松尾憲宏、MA.RI.KA DANCE STUDIO、まるchan、村上早織、森麻子、安池中也、山崎友也、山下詩乃、山本鈴乃、山森達也、横山圭生、渡邊元治、渡邊孝正

